

抵抗性ネギアザミウマのあたらしい防ぎ方

概要 Abstract

ねぎ類の重要害虫のネギアザミウマでピレスロイド剤が効かない「抵抗性ネギアザミウマ」が道内で見つかり、被害を防ぐのが難しくなっています。また、ねぎ類以外でもキャベツ結球部の被害が問題となっています。

- ①あたらしい遺伝子診断法により、抵抗性ネギアザミウマが全道に分布することがわかりました。
- ②ながねぎ、たまねぎ、キャベツでピレスロイド剤に代わる有効な薬剤を明らかにし、あたらしい薬剤防除体系を確立しました。



ネギアザミウマ成虫
(約1.5mmと非常に小さい)

キャベツ結球部被害
(被害部が黄色～茶色、ひどい場合は黒く変色)

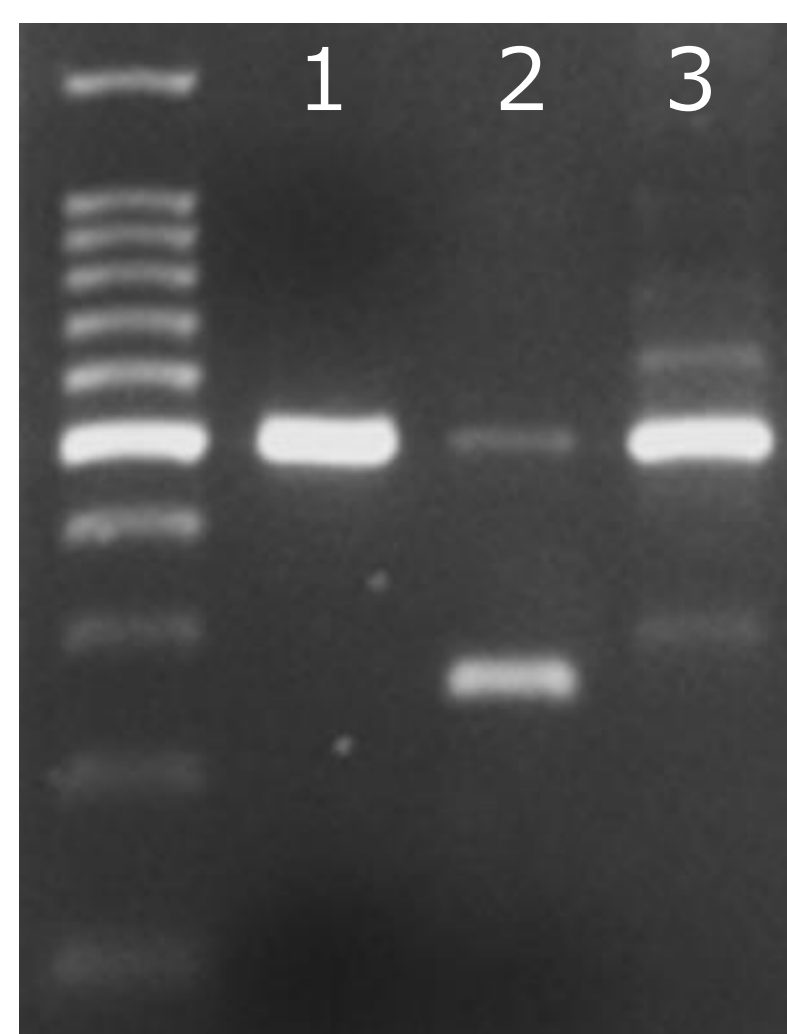
ながねぎ被害
(白いかすり状の斑点)

成果 Results

【抵抗性遺伝子診断法】

従来の方 法に比べて、低コストで効率的な新しい遺伝子診断法を開発しました！

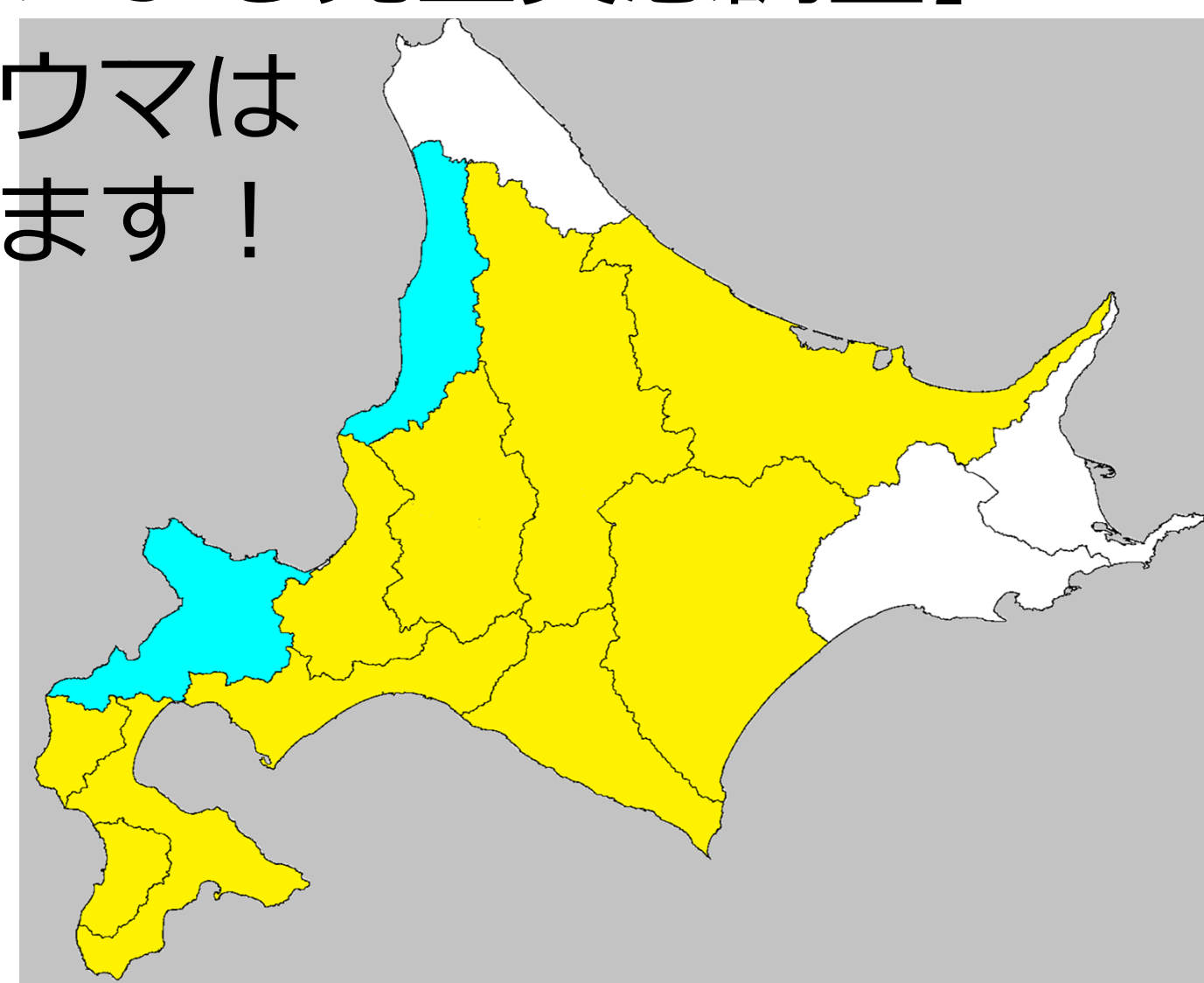
1はピレスロイド剤が効く感受性ネギアザミウマの遺伝子で、2,3は薬剤が効かない抵抗性ネギアザミウマの遺伝子です。



【遺伝子診断による発生実態調査】

抵抗性ネギアザミウマは全道で発生しています！

黄色：発生確認
水色：発生未確認
白色：未調査

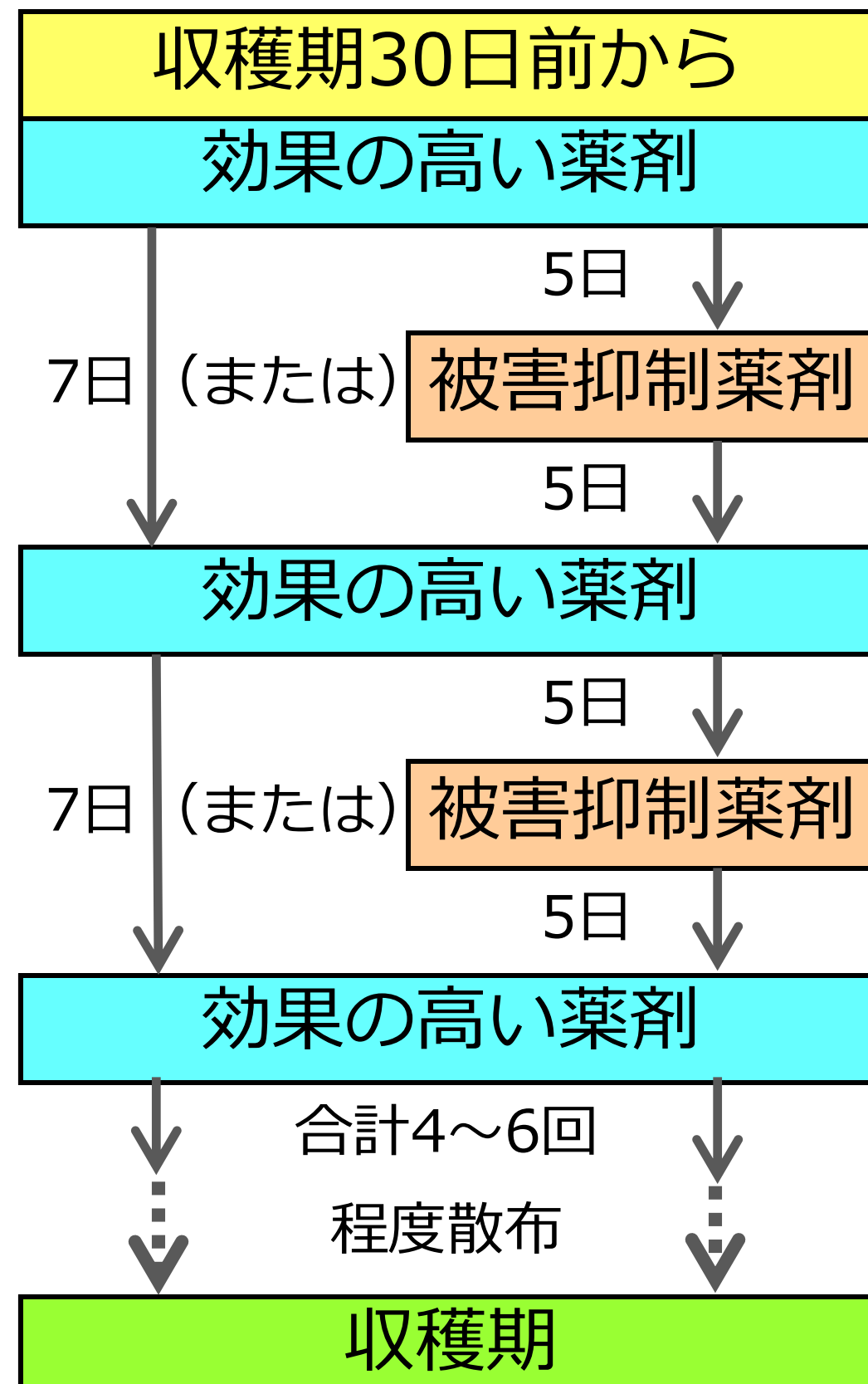


【あたらしい薬剤防除体系】

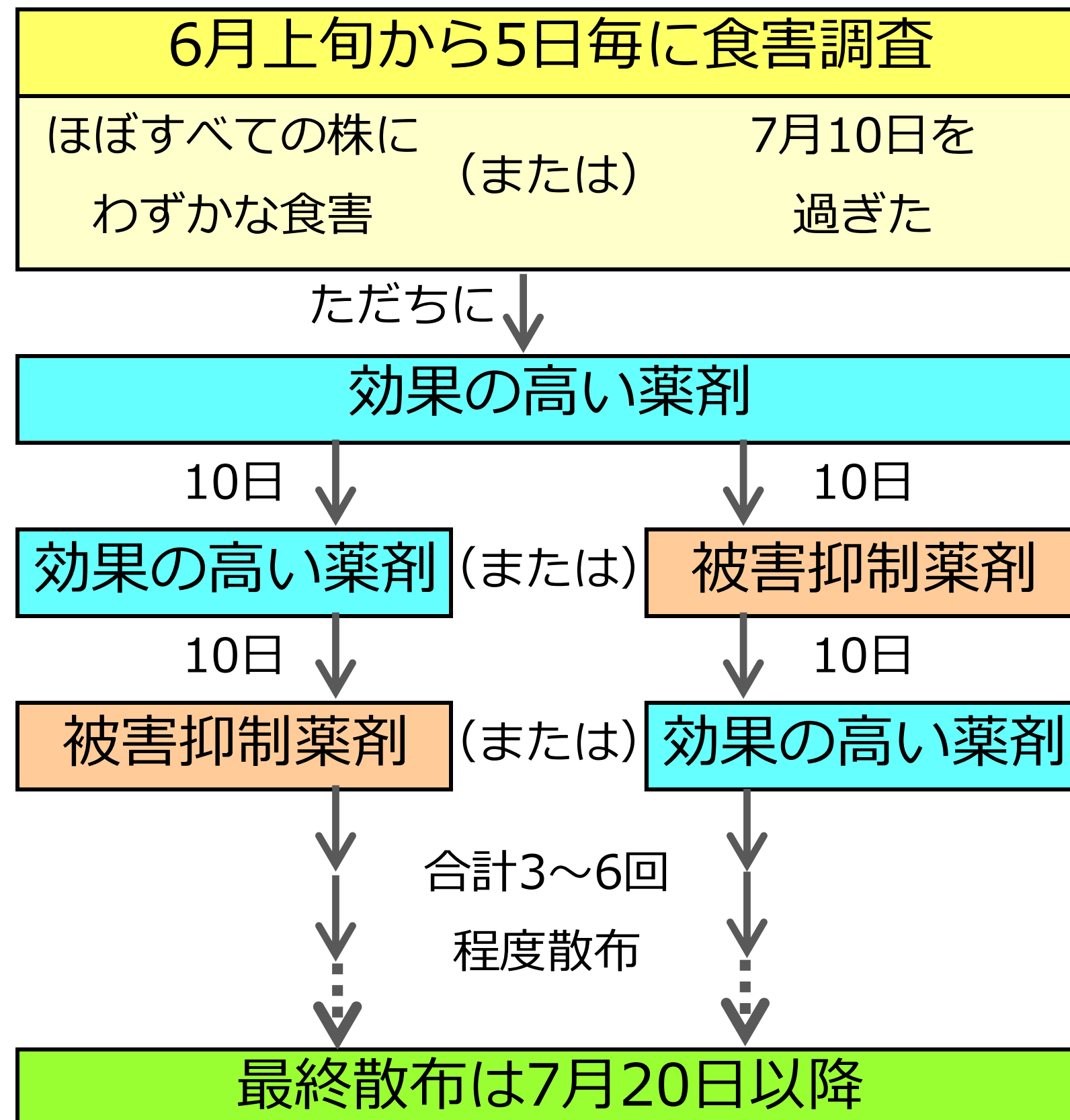
ピレスロイド剤が効かない抵抗性ネギアザミウマの被害を防ぐ方法を確認しました。

- ・ながねぎでは、慣行と同程度の7日間隔でのローテーション防除を基本に！
- ・たまねぎでは、従来の減農薬防除体系と同じ10日間隔でのローテーション防除を！
- ・キャベツでは、定植前薬剤灌注処理と7日間隔のローテーション防除の組合せで！

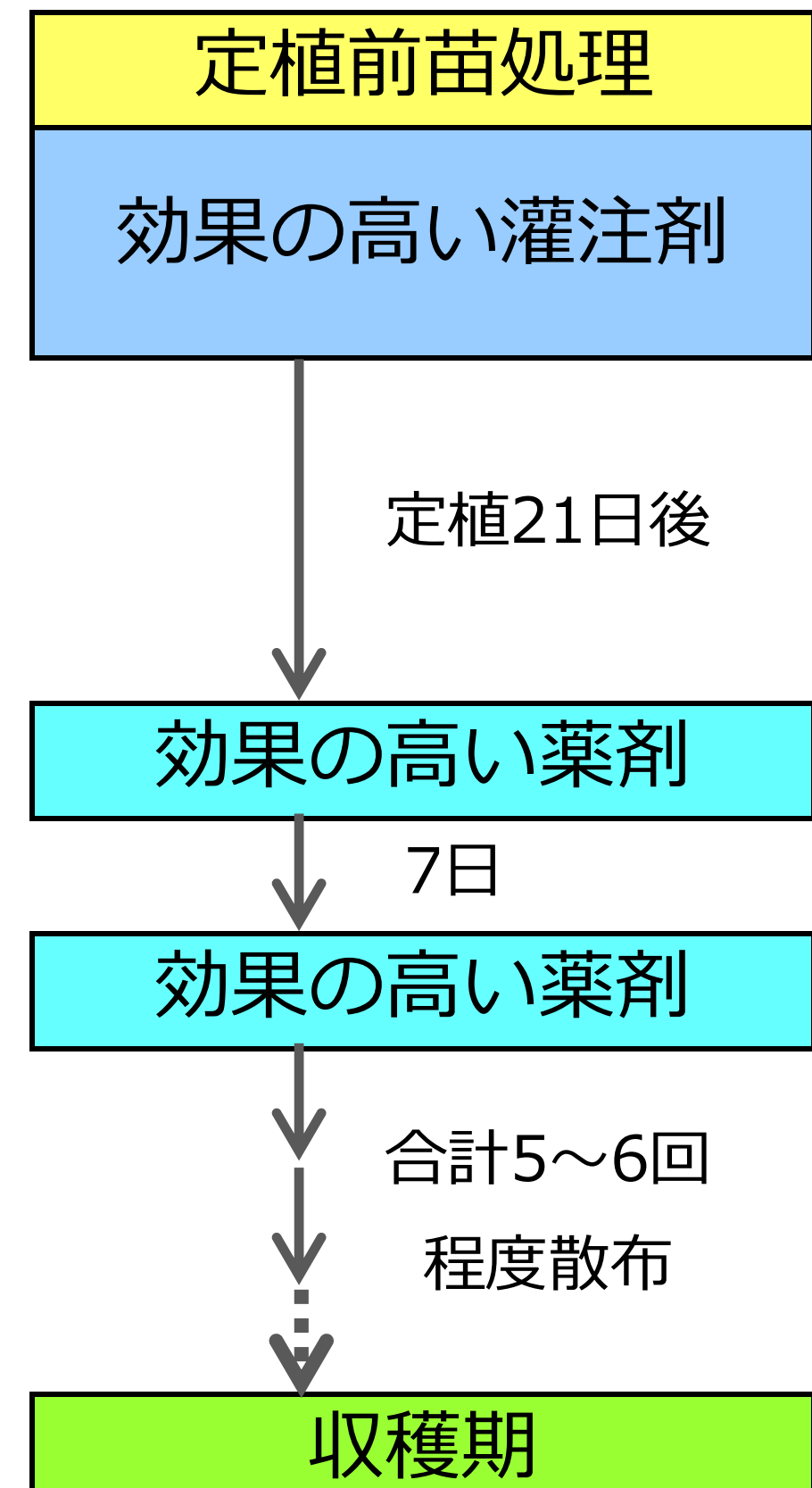
【ながねぎ防除体系】



【たまねぎ防除体系】



【キャベツ結球部防除体系】



ネギアザミウマの発生状況などに応じて「効果の高い薬剤」と「被害抑制薬剤」を上手に使い分けましょう。

普及 Dissemination

- ・この成果は、抵抗性未確認地域やピレスロイド剤がまだ有効な地域も含む全道が対象です。
- ・具体的な薬剤については、農業試験場または農業改良普及センターにお問い合わせ下さい。農業新技術発表会要旨にも掲載しています。

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ
0123-89-2001
central-agri@hro.or.jp